

## 令和2年度第1回岩手県公共事業評価専門委員会

(開催日時) 令和2年6月16日(火) 9:30~12:05

(開催場所) エスポワールいわて 3階 特別ホール

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 事
  - (1) 令和2年度専門委員会の開催スケジュール等について
  - (2) 公共事業の再評価について
    - ・農道整備事業 裊主地区(軽米町)
    - ・林道整備事業 平根山線(陸前高田市)
    - ・広域河川改修事業 二級河川気仙川(陸前高田市、住田町)
    - ・火山砂防事業 一級河川北上川水系平笠東沢(八幡平市)
    - ・都市計画道路整備事業 盛岡駅本宮線(盛岡市)
  - (3) 第2回専門委員会(現地調査)について
  - (4) 公共事業評価に係る評価基準の一部改正について
- 4 閉 会

出席委員

小笠原敏記専門委員長、泉桂子副専門委員長、石川奈緒委員、清水真弘委員、  
谷本真佑委員、武藤由子委員

### 1 開 会

【事務局から開会宣告】

【事務局から委員6名中6名の出席により会議が成立する旨の報告】

### 2 挨 拶

○北島政策企画課評価課長 開会に当たりまして、小笠原専門委員長から御挨拶をお願いいたします。

○小笠原専門委員長 おはようございます。令和2年度1回目の公共事業評価委員会となります。議事としては4項目です。そのうち主に中心となるのが2つ目の公共事業の再評価、今回5件ございます。1回目なので、かなり分からないところが多いかと思うのですが、簡単な質問でもいいので、より多くの意見を出していただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

【配付資料の確認】

【審議内容の説明】

### 3 議 事

#### (1) 令和2年度専門委員会の開催スケジュール等について

○小笠原専門委員長 それでは、早速議事の(1)、令和2年度専門委員会の開催スケジュール等についてに入りたいと思います。

まず、事務局から説明の方をよろしくお願ひいたします。

#### 〔資料No.1 説明〕

○小笠原専門委員長 事務局から説明がありました内容について、質問、意見等ございましたらよろしくお願ひいたします。

多分例年どおりだと思いますので、大丈夫そうですね。

「なし」の声

#### (2) 公共事業の再評価について

##### ・農道整備事業 養主地区(軽米町)

○小笠原専門委員長 それでは、議事(2)、公共事業の再評価について審議に入りたいと思います。

それでは、事務局から評価結果等について説明をお願ひいたします。

#### 〔資料No.2～No.4 説明〕

○小笠原専門委員長 ありがとうございます。

それでは、評価項目ごとに審議を進めていきたいと思います。初めに、事業の進捗状況等に関して、何か質問、意見等ありませんでしょうか。資料で言うと13ページになります。

○清水委員 事業の進捗状況等の(1)、イの③、解決に至るまでの対応及び期間ということで、当初の計画期間が平成28年度まで、再評価時には全体で最終的に令和9年までとなっていますけれども、今後10年弱、令和2年度と同程度の予算を毎年確保することにより、9年度に完了する予定。現状から今後、令和2年度と同程度の予算というのは、確保できるのかという、見通しについて教えていただけますか。

○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長 これまでの期間、農道整備事業のほかにいろいろ中山間地域での農業生産基盤を整備する別の事業が、大きな規模の地区がございまして、そちらの方にまとまった予算を配分しなければならなかったという事情がございまして、その辺が収束に向かっておりまして、今後はこの農道の方に予算を配分できる見通しが立っておりますので、そういう点で今後計画的に進めていけると考えております。

○小笠原専門委員長 その他にございますでしょうか。

○泉委員 工法の変化によりという御説明があったのですけれども、もう少し詳しくお聞

かせ願えませんでしょうか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 先ほどもスライドを使って説明をしたのですけれども、ここでは当初の事業を始める前は、既にあった現場の地形図というもので、室内で計画を図上で検討したと経緯でございます。その際に算定された土の量、農道の工事費の大部分を占める土を移動する工事の事業費が、土工量が当初は図面上で100メートルの区間を区切って、そこで横断図という今示しているような図面を作成して、それで土工量を算定しております。

事業実施時は現地で測量をして、同様な横断図を作ったのですけれども、現地が非常に急峻なところで、ちょっとずれると地形が大きく変化するというので、当初の見込んだものよりも、実際測ったところ土工量が何倍かに増えてしまったということで、それで事業費が増えたというのが、この約6億8,000万円事業費が増えた中身の約半分以上を占めております。

その他に排水施設とか、そういうものが概略で机上検討したものと、現地測量に基づいて設計したものと差があったという部分でも若干ありますが、概ねは土工量の算定の仕方の差によって差が生じたというものです。

**○泉委員** 土工量以外のところは、主に排水施設の関係で工事費が増えたということでしょうか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** これは排水施設ですが、道路を横断するそういう施設を実際の測量結果に基づき設計したところ、規模が大きいのが必要になったというところがございます。

**○泉委員** 横断暗渠工ということですか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** はい。あと、測量などについての地形が急峻であるため、測量の点数とか幅が増えたことなどで金額が増えておりますし、用地買収についても現地調査をしたところ、支障となる木が想定よりも多かったことでも金額が増えております。主なところは土工量になります。

**○小笠原専門委員長** 先ほどのスライドの中で、既往の事業の進め方のスライドがありましたよね。これ100メートルピッチというのは、工事区間に、工事事業距離に対して依存しないのですか。短ければ細かくていいとか、4.6キロメートルに対して100メートルというのは甘いのか甘くないのか、どちらなのでしょう。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 国の方で示されているやり方では、区間の延長全体、農道の延長というようなことではなくて、概略の検討としては100メートルに1か所で、机上で横断の測点を設定するというのが標準になっております。

今反省をしておりますのは、測点を100メートル間隔で設定することに加えて、

非常に地形変化が激しいというのは地形図でもある程度想定できるので、そういう部分についてはもう少し密に横断の測点を設定すれば、こういう乖離が生じることは回避できたのかなということを、後になって反省をしておるところでございます。

**○小笠原専門委員長** このスライドを見ると、過去だと事業費の変動率が大体33%ぐらいで済んでいたと、3割ぐらいだったら許せる範囲なのかなという気がするのですけれども、今回何割増になっているのでしょうか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 全体では80数%でございますが、この土工量の部分では55%というふうなことでございます。その他に物価変動の部分などが3割ぐらいありますので。

**○小笠原専門委員長** 物価変動は、土量が増えたから人件費も掛かりますよねと、結局直結してくるのかなという気もしてしまうので、やはり当初の計画がかなり甘かったのかなと言わざるを得ないような気がします。

その他何かありますでしょうか。

**○石川委員** 1つ確認させていただきたいのですけれども、イの②の解決の見通しのところで、用地買収は令和元年度までに完了ということで、計画よりも延びているというのは、予算が確保できなかったというような実態ですか、それとも用地がなかなか買収できなかった要因があったのでしょうか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 用地の方は、地元の協力がありまして、非常にスムーズに進められました。計画期間が延びた要因としては、全体で事業費が増えてしまったというふうなことがございますが、あとはやはり年度のこの地区に配分できる予算というものが、農業生産基盤整備の全体予算の確保がなかなか厳しい状況で、ここに配分する予算が想定よりも少なくなっているというのが大きなところでございます。

**○石川委員** すみません、もう一つ、その前のところに、①番のところの工程の見直しが生じた。工程の見直しのところは分かったのですけれども、工法ではなくて路線の見直しとか、そういったことというのはされたのですか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 基本的には、当初図上で設定した路線とほぼ同じ形で現在も進めております。変更はございません。

**○石川委員** 難しいのかもしれないのですけれども、路線をある程度変えることで、土工量とか、そういったところのコストダウンとかができる可能性があるのかなと思ってちょっとお伺いしたのですけれども、そういうのはなかなか難しいのですか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 起点と終点というのは変わっておりませんで、実施設計の段階ではある程度、沢のこちら側に行くとか、反対側に行くとか、そういうふうな微妙な線形の変更はしておりますが、基本的には大きなルートの変更などはしていません。

**○小笠原専門委員長** 今の詳細設計に入って土量が増えたと。路線の検討をしたということなのですが、次回までにそういった検討の内容を資料として見せることは可能でしょうか。要するに、土量が増えているのであれば、土量の少ないところを通すという工夫も必要だと思うのです。だから、そういったことをちゃんとやられて、やはり現状の路線で対応しないといけないということをちゃんと段階を踏んだかどうかという資料をぜひ次回用意していただきたいです。

次の社会経済情勢の変化ですね、次のページ、そこについても何か御意見等ございましたらよろしく願いいたします。

**○谷本委員** すみません、ちょっと教えていただきたいのですが、費用便益分析のところ、便益が営農に係る走行経費節減効果で、今非常に大きく増えているという御説明を頂きましたけれども、その中で便益の算定対象範囲を見直したという御説明が先ほどスライドであったかと思いますが、このどこかに、たしか八戸のほうから軽米にやってくるというようなお話があったかと思います。これは、経路なのなのですが、八戸インターから南郷インターまで1区間使って、そこから県道を使っているという御説明だったと思うのですが、これは実際このような経路を使って輸送されているという実績があつてのこのようなルート設定と考えるとよろしいでしょうか。といいますのは、八戸から南郷、10キロ程度かと思うのですが、この区間だけ高速を使うほどの距離かなというのが私の感覚でして、これだったら軽米まで高速に乗るか、もしくはずっと下道で運ぶのが一般的なのかなと思ったのですが、実際のこの輸送の経路について、もし把握されているようでしたら教えてください。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 八戸の飼料コンビナートから県北一円の輸送範囲については検討いたしました。確かに八戸から直接洋野町の方に入って、この区域に入ってくるという県道もございますが、そのルートを通りますと、どうしても八戸の港の周辺あるいは市街地などを経由するルートになりますので、走行時間的にはそれほど変わらないのですが、市街地を通るということで定時運送の部分でちょっと心配があるということがございます。

それで、既存の広域農道も高速輸送体系を前提としたルートとして、既存のルートがございまして、その効果をさらに補完するような形で本農道を計画しておりますが、そういう路線を今後つくるということを前提に、ブローラー会社の方に聞き取り調査をしたところ、1区間であってもコンビナート自体が高速輸送システムを前提としたような位置にありますので、そういう点で優位だということで、この高速道路を経由した高速道路、広域農道というルートで輸送するという点については、飼料会社からそういうルートの利用はあるということで確認しております。

○**谷本委員** ちなみに、八戸の方から軽米の方に行くというのは、これは件数といいますか、会社数といいますか、それは結構多いものなのでしょうか。

○**千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** ブロイラーの会社ですか、今回は県内で一番大きく生産しているところに聞き取りをしておりますが、県内の資本では、その他に1社、あと八戸の方に拠点を持つ会社も1社、大体大きなところは3系統のブロイラー会社がございますが、今回は二戸の方に拠点を持つ一番大きなところから聞き取りをしております。

○**小笠原専門委員長** その他ありますでしょうか。

○**武藤委員** バイオマス発電所が新しくできたということですが、その会社は新しく参入されたのですか、この地域に。

こちらの利用が高いということで、便益性計算されていて、大きく値を占めていると思うのですが、今後安定した会社さんが経営されていくというのは予想されるのか、お伺いしたいと思います。

○**千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** まず、このバイオマス発電所でございます。以前は、県北に何箇所か堆肥化をすとか、あるいは炭にするとか、そういうふうなことで土壌改良資材とか肥料というふうな形で今まで処理をしてきました。昨今再生可能エネルギーということで、電力の買取なども優遇されるということや、そういうこともありまして、このブロイラー会社の方では発電事業、これは南九州の方で先行した事例がございますが、それらを参考に取組んでおるものです。

それで、クリーンな電力を買い取っていただけるというようなことで、鶏糞処理としてはリサイクルというか、そういう再生可能ということで、非常に企業イメージのアップにもつながるといってもあって、取組まれております。

鶏糞事業、ブロイラー事業につきましては、ここ数年若干ずつ拡大しながら取組まれておりますので、今後も安定的なブロイラー経営に関連する廃棄物処理として継続して経営されていくものと考えております。

○**小笠原専門委員長** 先ほどの件と今の件で、これB/Cにかなり大きく影響してくる、事業着手時のトン数と再評価時のトン数がかなり変わっているわけです。これで先ほどの事業費、盛土の分をごまかしたと、ひどい話ですが、それで埋め合わせているように見えるのですが、そうしたらもう少しこの、これアバウト過ぎるのです。数値、全体としてマキシマムでぼんと出しているだけなので、もう少し久慈市から何トン、野田村では何トン、そういったものをしっかり出すべきで、将来的にどれぐらい伸び率があるかというようなこと、過去どれぐらいで、今どれぐらい伸びてきたのかと、そういったところを見せてもらえれば、より納得ができると思うのです。この道路の価値も高まるのかなという気がするのですが、ちょっとあまりにも一つの数字だけでどんどんと示されるのは、

それでB/Cが変わらなくてよかったですねでは、ちょっとおかしな話なので、そこは次回までに資料をよろしくお願ひします。

そうしたら、次のコスト縮減対策及び代替案立案の可能性について、質問等ありましたらよろしくお願ひします。前のところでもまだあれば質問してください。

**○泉委員** 15 ページのところですと、地域の農業としてブロイラーをすごく強調されているのですけれども、その他の農業者の方にとって、この農道の役割というのは何かあるのでしょうか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 県北は主には畑作、あとは畜産でも養豚とか、あるいは乳牛とか肉牛とかというものもござひます。そういう点で、日々の牛乳の輸送とか、あるいは豚の出荷とか、あるいは米とか畑作物の資材の搬入、搬出とか、そういう部分での利用も見込まれております。

ただ、全体としては、輸送量の相当部分については、ブロイラー関連の輸送量が見込まれるという内容になっています。

**○小笠原専門委員長** 割合から見たら9割ぐらい、そういう鶏糞とかの輸送に。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** はい。

**○小笠原専門委員長** その他にござひますでしょうか。

**○石川委員** 自然環境のところなのですけれども、希少種というのはどういったものか教えていただけますか。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 具体名は、この場ではお示しできないのですけれども、レッドデータブックのBランクの植物がある可能性があるという調査委員会の調査結果はござひます。実際に確認されたものというはござひませんが、ある可能性があるということは御指導いただひております。

**○石川委員** では、まだ見つけて移動させたというようなことはないということですね。

**○千田農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長** 実績はござひません。

**○小笠原専門委員長** その他何かありますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** 全体のまとめで総合評価について、何か質問、意見等ありますでしょうか。これまでのところについてでも構ひません、何かあればよろしくお願ひします。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** よろしいですか。それでは、この事業の審議論点について整理していきたいと思います。工事設計の期間ですね、令和9年までの見通しについてということと、あと路線の検討、工法、掘削土量が増えたということで、路線の検討に対してどの程度の見直しが行われたか、これは次回の審議のときまでに資料を用意していただきたいと。

あと、輸送経路について、そこで再評価時に鶏糞の輸送量がかなり増えたというところで、もう少し詳細な資料を次回までに準備していただきたいというところですが、その辺りが主なところかと思えます。

他に何かありますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** 私の方から事務局の方に。

昨年度の答申の際に附帯事項で詳細、要するに事業着手時前のもう少し詳細な測量等の見直しをお願いしたいということで、庁内の方に一応出したのです。その内容をやはり委員の皆さんに知っていただき、どういう答申で附帯事項がついたかと。今回も結局は詳細設計に入っていったら、工事費が増えてしまったということなので、事前の調査をもう少ししっかりできていれば、ここまで事業費は増えないで済むのかなという気がしますので、次回までにその辺りの資料を準備していただきたいと。

これでこの事業について審議を終了したいと思います。事務局から他に何か確認事項等ございますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** ありがとうございます。

・林道整備事業 平根山線（陸前高田市）

**○小笠原専門委員長** 林道整備事業平根山線の評価結果について事務局から説明をお願いいたします。

〔資料No. 4 説明〕

**○小笠原専門委員長** ありがとうございます。

それでは、まず事業の進捗状況等について、何か質問、意見等ございますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** ないようでしたら、社会経済情勢等の変化についても併せて何か御



意見がありましたらよろしく申し上げます。18、19 ページ、あと 20 ページ。

申し上げます。

**○清水委員** 社会情勢等の変化の事業に関する評価指標の推移のところ、必要性の項目のうち地域振興、再評価時に 1 地区だったものが再々評価時に 2 地区になった経緯等を教えていただけますでしょうか。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 地域振興の地区が増えた理由については、事前評価時と再評価時、27 年時点においては、陸前高田市は過疎地域に指定されていなかった状況でした。これが平成 28 年度に過疎地域に指定されたことにより、1 地区増え、2 地区となったものでございます。

**○小笠原専門委員長** その他にございますでしょうか。

よろしく申し上げます。

**○武藤委員** 震災後、木材の需要が増えたという御説明だったのですが、その要因というのはどんなものがあるのでしょうか。今後増えるのか、今後はもしかしたら減るのかというところで気になります。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 木材の需要量については、今現在右肩上がりの状況で、130 万立方メートル位が全県下の状況です。供給量としては、県内で大体 150 万立方メートル位で、残りの分については、秋田県や宮城県に行っているという状況です。ただし、今年度は新型コロナの影響で、先行きがどうなるのかを、注視していかなければならないと考えております。

**○小笠原専門委員長** その他にございますでしょうか。

**○泉委員** 19 ページの(2)の指標の表のところ、重要性の一番上の林内路網密度が再評価時と再々評価時で倍ぐらいになっているのですけれども、これの要因は何かということが 1 つと、木材の需要につきまして、住田町の三陸木材でしたか、解散するということが新聞に載ってましたので、それによってこちらの地域の材の出どころといったことで何か変化が見込まれるのかどうかという部分について、見通しをお聞かせ願います。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** まず、林内路網密度について増えているものに関しては、現在道路がアクセス道路として作業路等が入ってきているというのがございまして、それを集計した結果、数字が出ている状況で、今回ヘクタール当たり 15.6 メートルとなっており、再評価時よりかなり増えている、倍ぐらい増えているというのを今回把握したところです。

先ほどありました住田の関係なのですが、私どもも新聞報道でしか知り得ていないというところがございます、今後の見通し等、詳細についてはこの場で私からは回答できな

いという状況でございます。御了承願います。

**○泉委員** 第1の点については、いわゆる林内作業路みたいなものがこの分子の数字に入ってきたということによろしいのですね。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** はい。

**○小笠原専門委員長** その他にございますでしょうか。  
お願いします。

**○石川委員** 費用便益のところ、災害等縮減便益が再評価、再々評価でどんどん増えていくというのは、こういった要因があるのですか。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 災害等縮減便益が増えた理由についてですが、防火帯便益において事業計画が5年増えたことによりまして、整備計画がその分増えたということで、その効果額が計上されたことによって増となっております。防火帯の設置に要する費用につきまして、防火帯の維持管理費とか、それらの効果が増となったということになりまして、便益は増となっております。

**○小笠原専門委員長** 工期が延長になると増になるのでしょうか。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 整備期間が長くなることによって、その分の効果額が計上されたということになって増えるということがあります。

**○小笠原専門委員長** 計上されたというのは、何が計上されるのでしょうか。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 防火帯の設置に要する費用です。あとは維持管理費が増えるという状況になります。

**○小笠原専門委員長** だから、それはあまりいい評価ではないですよ。要するに、工期が延びれば延びるほど、どんどんその年にかかるお金が減るから増えるということですよ。ね。

**○石川委員** よく分かっていないのですけれども。

**○小笠原専門委員長** だから、本来1年、例えば100万円でやらないといけないのを3年で100万円やるので、30万円で済むから縮減という感じではないですか。私が間違っていますか。何かおかしい感じがするのです。

**○石川委員** ですね。

**○小笠原専門委員長** もうそれに本来変わらないのではないかな。私はてっきり、道路ができることによって、要するに火事が遮断されるわけです。そこで移らなくなるので、そういったことで災害の対策効果として縮減なのかなと思ったのですけれども、そうではないのだったら、この項目自体が、これは工期が延びたらどんどん増えるということですよ。ね。

**○高橋森林保全課主任主査** 委員長御指摘のとおり、災害費用便益というのは、できたことによって防火帯として火災の延焼とかを抑えられるという防火帯の便益というものを指してございます。その計算方式ですけれども、林道ができたことによって林道の幅や防火帯として火災が起きたときの費用の維持管理費などを計上しておりましたので、その便益が年数分増えたということですよ。

**○小笠原専門委員長** だから、この評価はおかしいと思いませんか。増えるに決まっているので、これはちょっと見直してもらわないと。効果があるような感じに逆に印象を受ける。もともともう決まっている固定のお金なので、その増減なんていうのはあり得ない。

**○谷本委員** 今の御質問と関連するかと思うのですけれども、再々評価で出されたB/Cの1.12というこの数値は、これはいわゆる全事業B/Cでしょうか、それとも残事業B/Cでしょうか。つまりこの後の杜の大橋とも絡んでくるかと思うのですけれども、林道が全くない状態と全部できた状態から出したB/Cなのか、それとも今部分開通しているという御説明ありましたけれども、部分開通してあるところは除いて、残ったところを整備したときに出てくるB/Cなのかというのを教えてください。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 全体についてのB/Cになります。

**○谷本委員** 全体。では、全くない状態から全部できた状態が出たB/C、分かりました。

**○小笠原専門委員長** B/Cの話が出たので。懸念されるのは、国からの事業費が減っているということで、将来的に大丈夫なのか。さらに工期延長になったら、B/Cがさらに1に近くなっていくということなので、ちゃんと工期内に完成する目途というのは、どの程度あるのでしょうか。

**○安藤森林保全課技術主幹兼保全・治山林道担当課長** 今の計算でいきますと、単年度600メートルほど開設していくと、この期間内で間に合うということになってございますので、事業費の関係については、やはり開設効果を高めなければならないと思いますので、重点的に予算配分し整備していきたいと考えてございます。

**○小笠原専門委員長** そうしたら、次にコスト縮減対策及び代替立案の可能性と、あと総合評価も踏まえて、何か質問、意見等ございますでしょうか。

この事業自体は、事業費が増額しているのですけれども、それは経済状況、物価等が変わったというところで、それを見直さないといけないので、増額したというところだと思います。

細かな点のところですね、評価指標の推移とか、あと費用便益の、先ほど委員の方から質問があった地域振興と、あと林内路網密度の数値が変わっているところについて、もう少し詳細に、何がどう変わったのかというのを次回説明していただければと思います。

あと、これ今さらどうなのか私もよく分からないのですけれども、災害等縮減便益というものが、これがどちらかというと、事務局の方に関わっていきますが、こういう便益の出し方が本来いいのかどうかと、私もよく分からない。これは、事務局の方に預けたいと思います。

その辺りが論点ということでよろしいでしょうか。

「はい」の声

**○小笠原専門委員長** この事業について、これで審議を終わりたいと思います。事務局の方から何か確認事項等ございますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** ありがとうございます。

#### ・広域河川改修事業 二級河川気仙川（陸前高田市、住田町）

**○小笠原専門委員長** それでは続きまして、広域河川改修事業二級河川気仙川の評価結果について事務局から説明をお願いいたします。

#### 〔資料No. 4 説明〕

**○小笠原専門委員長** ありがとうございます。

それでは、まず事業の進捗状況等について質問、意見等ございましたらよろしく願いいたします。

**○谷本委員** 事業の進捗状況等の（２）の事業計画の変更の有無及び内容のところの橋梁工のところでお伺いしたいのですけれども、先ほど御説明いただいたところだと、今架かっている昭和橋のところに新しくまた橋を架け直すという御説明を頂きましたけれども、橋を架け替えるときは今の位置に架け替えるというのあれば、少しずらした位置に架け直して、交通の途絶を防ぐという考え方もあるかと思うのですが、ここでは歩道橋で歩行者をカバーしつつ、現位置への架橋をしたという必要性をちょっと教えていただけませんか。

**○吉田河川課担当課長** 架橋位置につきましては、やはり委員のおっしゃるとおり、様々

なところを検討いたしました。最終的には、現地にも行っていただくことになるのですが、非常に町中が狭隘でございまして、架ける場所が少ないということと、あと景観検討委員会の中でも、まちづくりという観点からも議論いただきまして、現行の位置が良いということから、今回の場所に決めたという経緯でございます。

**○小笠原専門委員長** 仮設橋は歩道橋のみなのでしょうか。

**○吉田河川課担当課長** 歩行者の方が遠回りすると、非常にお年寄りも多い中大変ですので、車は迂回していただくということになります。

**○小笠原専門委員長** その他にございますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** また何かありましたら、次の質問のときに。

続いて、社会経済情勢の変化等について質問、意見ございますでしょうか。

**○泉委員** 24 ページの(2)の評価指標の推移の表、25 ページの費用便益分析の表を比較したときに、24 ページの表の方では、必要性の一番上の想定氾濫被害額というのが30億円以上となっているから詳細は分からないのですが、評価は変わっていません。一方25 ページの便益項目の被害額の便益というところは、倍ぐらいになっているのですが、この2つの関係と25 ページの表のもう少し詳細な内容を御説明お願いします。

**○吉田河川課担当課長** 24 ページの想定氾濫被害額は、1回の洪水で発生する被害額を記載してございます。25 ページの方は、B/Cを算出するために社会的割引率という現在価値化を行った数字が記載されてございます。現在価値化と申しますのは、今まで守ってきた資産とか、あるいは今後守っていく資産というものを現在価値に換算しB/Cを出すものであり、関連はしているのですが、直接は比較できないということになります。

**○泉委員** 25 ページの表の内訳というものはあるのでしょうか。被害額の便益というのは、建物なのか人口なのか、何が効いてくるのでしょうか。

**○吉田河川課担当課長** B/Cを出すときには、氾濫するエリアをシミュレーションでまず計算し、氾濫域を出しまして、そこにある資産、例えば家屋ですとか、あとは公共土木施設とか、そういったものを、各団体が出しているメッシュデータを拾ってきて、それを積み上げていって算出したものでございます。出そうと思えば、内訳は出すことができますが、非常に細かいデータですので、この場では難しいです。

**○泉委員** いろいろな建物などが復興で建ったことにより、数字が大きくなっているという解釈でよろしいですか。

○吉田河川課担当課長 そうです。特に陸前高田市の方で大きく変わってきたので、便益が大きくなってきたということでございます。

○小笠原専門委員長 その点も踏まえて、スライドの中で今までの完了工事によって氾濫範囲が、被害が軽減したと説明されていると思うのですけれども、その辺りの浸水エリアのマップ、工事前、工事後、そういったものを次回までに用意していただきたいのと、あとやはり今被害額の便益で倍近く増えているというところで、内訳をどのように出されたかというところをもう少し出していただきたい。

再評価時の、復興途中段階なので、どんどん変わってくるような気もするので、どの時点での評価なのかというところを明確にしていきたいと思います。

○吉田河川課担当課長 承知しました。

○小笠原専門委員長 その他ございますでしょうか。

「なし」の声

○小笠原専門委員長 次に、コスト縮減対策及び代替案の可能性と、併せて総合評価について、何か質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

「なし」の声

○小笠原専門委員長 最後のスライドの方に、これは結局震災が起きて下流側の気仙大橋を国のほうが架け替えるから、ダムがなくなっていて、河川改修でいいのではないかという話なのかなという気がするのですけれども、改修もするはずであることから、ダム+河川改修の当初計画事業費というのが幾らになって、この河川改修の事業費が幾らかというのを、できれば次回までに。そうすると、すごくコスト縮減になっているのではないかというのを逆に言えると思われま。

コスト縮減のこれまでの私の印象は、大したことはないという印象なので、ダムを廃止して河川改修にすることによって、何十億円ぐらいコスト縮減になったと言えるのではないかなと私は思っているの、そういったところを、せっかくの事業評価なので、どこまで出せるか分からないですけれども。

○吉田河川課担当課長 ダムのような治水機能を持った施設というのは、遠い将来計画をつくることになります。こちらの気仙川につきましては、遠い将来計画は70年に1回の洪水に対応するというのを計画として持っていることから、ダムもそれを目指してつくることになります。ただし、今回はまずは近年洪水対応の、30年に1回の洪水に対応しますという暫定形の事業でございます。

それで、30年に1回の洪水に対応したものでつくるといたしますと、現在の河川改修は

今回お示しした 49 億円なのですが、ダム+河川改修の場合は約 153 億円になります。ダムは 70 分の 1 でつくっているからということなのですが、そういった状況でございます。

**○小笠原専門委員長** 単純に比較は難しいということですね。だから、河川改修も今 30 分の 1 から 70 分の 1 にしたら事業費が上がるから、何とも言えない。分かりました。

では、その他ございますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** この事業の橋梁工の橋の位置についての質問で、これは多分現地視察のときにどういった場所なのかというのが分かってくると思うので、そこで改めて御意見等いただければ。

あと、被害額の便益ですね、ここについては次回までにその内訳ですね、なぜこのような数値が出てきたかというところをもう少し、根拠資料の方を準備していただきたいというところです。よろしいでしょうか。

「はい」の声

**○小笠原専門委員長** それでは、この事業についての審議を終了したいと思います。事務局の方から他に何かありますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** ありがとうございます。

#### ・火山砂防事業 一級河川北上川水系平笠東沢（八幡平市）

**○小笠原専門委員長** 続いての評価事業、火山砂防事業一級河川北上川水系平笠東沢の評価結果について事務局から説明の方をお願いいたします。

#### 〔資料No. 4 説明〕

**○小笠原専門委員長** ありがとうございます。事業費は変更していないということで、工期が延長しているというところで、細かく見るのではなく、全体を通して何か御意見、質問等ございましたらよろしく願いいたします。

では、お願いいたします。

**○泉委員** 31 ページの（２）の評価指標の推移のところ、ゼロだからあまり気にしなくていいのかもしれませんが、重要性の（２）、政策課題というのは何でしょうか。

**○藤原砂防災課砂防災担当課長** すみません、ちょっと今手持ちに資料がございます

るので、後でお答えしたいと思います。

**○小笠原専門委員長** その他ございますでしょうか。

**○石川委員** 費用便益分析のところの人的被害というのは、どのように算出をするものなのか教えていただけますか。

**○藤原砂防災課砂防災担当課長** 人的被害につきましては、逸失利益というものと、あと精神的損害額というものがございます。人身被害抑止効果と言われているものが逸失利益というものでございまして、こちらは人命損傷に係る逸失利益ということになっております。下段の方にあります間接被害軽減額によります人的被害（精神）と書いているものは、こちらは人命の損傷による精神的打撃というようなことを評価しているものとなっております。こちらにつきましては、先ほど言いましたマニュアルの中で評価する項目となっておりますけれども、算出の仕方につきましては精神的損害額、こちらにつきましては、公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）というものが平成 21 年 6 月に出されておまして、1 人当たり 2.26 億円という形で算出するようになっております。

あと、直接被害の方になります人身被害につきましては、被害想定区域内におきます年齢別死者数を想定しまして、ライブニッツ方式というものがございますけれども、そこで逸失利益を求めることになっております。

あと、式につきましては、かなり細かい数字でございまして、必要であれば後で算出式につきましては、御提供したいと思います。

**○小笠原専門委員長** よろしくお願いたします。

その他にございますか。

**○谷本委員** 先ほどの質問とちょっと関連するかと思うのですが、人的被害を算定するに当たっての対象とする人というのは、基本的には先ほどお示しいただいた土砂が広がる範囲の中に住んでいる人という考え方でよろしいのでしょうか。

**○藤原砂防災課砂防災担当課長** 先ほどお示しいただいた氾濫の想定、土石流の到達範囲といたしますか、ものがございますけれども、こちらのほうに人家が 32 戸ございますので、こちらのところに住まわれている方が被害額といたしますか、便益の方に算出するような形になっております。

**○谷本委員** ではここに住んでいらっしゃる人口に対して出てくる便益というのは、今お示しいただいたこの額という理解でよろしいのでしょうか。

**○藤原砂防災課砂防災担当課長** 32 戸実際ございますけれども、例えば 32 戸の中に 1 戸当たり 3 人の人がいたり、4 人の人がいたりとか、そういう形で想像されるかもしれないのですが、そこまで実際計算できるものではございませんので、先ほどちょっと御説



明したライブニッツ式と言われるものがございますけれども、その式を用いまして、算定しているというような形になっておりまして、実際は全壊の戸数というものが式の中に出てくるのですが、それが先ほど言った32戸というものが出るのでございますけれども、そちらから計算されるもので算出しているというような状況です。

○**谷本委員** 戸数の基準ということですか。

○**藤原砂防災害課砂防災害担当課長** 戸数の基準ということです。

○**谷本委員** 分かりました。

○**小笠原専門委員長** この辺りも踏まえて、次回までに算出方法と、あといずれも再評価時に増えているので、なぜ増えたのかという根拠、その辺りを示していただけるとありがたいです。

○**藤原砂防災害課砂防災害担当課長** 分かりました。

○**小笠原専門委員長** その他にございますでしょうか。

費用便益が7.6ともものすごく高い割に、なかなか公共事業として進まないのはどういうものですか。事務局のほうに聞きたいというか、便益の評価の算出があまりよろしくないなという気がするのです。7.6 だったら、早急に行ってもいい事業ですよという話になるのでございますけれども、でも後手後手に回っているわけです。だから、この便益はいま一度見直してもいいのかなと印象を受けただけです。

その他にございますでしょうか。

「なし」の声

○**小笠原専門委員長** ないようでしたら、論点を整理したいと思います。

政策課題は大丈夫ですか、中身は。あまりここには直接関わっていないのですが、もし可能でしたら、政策評価とはどんなものかというものを次回までに説明していただくとありがたいなと思います。

あともう一つ、人的被害のところでの算出の過程と増加した理由を次回までによりしくお願いいたします。

それでは、この事業の審議を終わりたいと思います。事務局の方から何か確認事項ありますか。

「なし」の声

○**小笠原専門委員長** ありがとうございます。

・都市計画道路整備事業 盛岡駅本宮線（盛岡市）

○小笠原専門委員長 そうしたら審議事項最後、皆さん多分身近な道路、都市計画道路整備事業盛岡駅本宮線の評価結果について、事務局の方から説明をお願いいたします。

〔資料No. 4 説明〕

○小笠原専門委員長 ありがとうございます。

この事業、事業費が10億円ほど増加しているのですけれども、理由がかなりはっきりしているのです、全体を通して質問、御意見等ありますでしょうか。

○谷本委員 費用便益分析のところ、先ほど御説明いただいたところで、今回出させていただきましたB/Cが杜の大橋が全くない状況と、4車線で完全にできた状況で出されたB/Cということで御説明いただきましたけれども、現時点で2車線できているわけですよ。そこを現況として、そこから4車線にした場合のB/Cというのを出さずに、全くない状態からある状態でB/Cを出されたということなのですが、これは過去のこういうふうな再評価で暫定供用されてから、完成に至るまでの事業評価で、こういうふうに全くない状況から完成形を比較してB/Cを出しているというのは、これは慣例になっているという考えでよろしいのでしょうか。

○田家都市計画課計画整備担当課長 暫定供用の場合のB/Cの算出の仕方が過去にそうになっているからということではなくて、今回の場合は事前評価時に事業全体で評価を行っており、評価方法を合わせたものということでございます。

○谷本委員 分かりました。

あともう一点いいですか、費用便益分析のところの表の下の方に計画交通量を出されていますけれども、再評価時に計画交通量が1日2,000台ほど増えている結果になっていると思うのですが、人口が減っている中でこの計画交通量が増えるという、要因をもし確認されているようでしたら、ちょっと教えていただきたいです。

○田家都市計画課計画整備担当課長 一帯としましては、盛南開発の影響で盛南地区が大分開発されたということと、国道46号バイパスも供用しているということもあって、交通量も大分流れてきているのではないかと考えております。

○谷本委員 ありがとうございます。杜の大橋の駅側の西口のほうの開発というのは、これは関連するプロジェクトには、これ頂いた資料には書いていないようなのですけれども、これはなければいけないものと思ってよろしいのでしょうか。

○田家都市計画課計画整備担当課長 関連するプロジェクトは盛岡駅西口開発のことだと思いますけれども、そちらは含まれていません。評価指標の関連プロジェクトというのが高規格幹線道路等と密接に関わる事業や国体等イベントに関わる事業ということになり

ますので、西口開発は含まれていないということでございます。

○**小笠原専門委員長** その他にございますでしょうか。

○**石川委員** 2つお伺いしたいのですけれども、事業の進捗状況のところで工程を見直したというお話があったかと思うのですけれども、具体的にどのような工程の見直しがあったのかを教えてください。

○**田家都市計画課計画整備担当課長** 事業着手の後に東日本大震災が発生したということもありまして、復興事業に注力してきたということがあります。内陸の方の事業は進捗を調整したこともありまして、橋梁工事の着手時期を調整したということもございます。

○**石川委員** スケジュールを延ばしただけというか、そういう話だということですか。

○**田家都市計画課計画整備担当課長** そうです。橋梁工事ですと複数年に渡って必要な事業費も膨大ですので、着手の順序は県全体の事業の中から重要性の高い沿岸の復興事業のほうを優先的にやってきたというところもありまして、事業費の大きい橋梁工事の着手の時期が遅くなりまして、事業期間も併せて延びたということもございます。

○**石川委員** もう一つ、先ほどの谷本委員のお話と関連するのですけれども、私もこの費用便益分析のところを2車線区間が未供用の状況からの算出というところが気になりまして、事業全体のところで費用便益を出されたという話をされましたけれども、この事業は第2期の事業ということになるのかなと見ていまして、事業着手時というのはこの事業に関しては2車線区間が供用されているところなのかなと、第1期のところで平成18年に2車線供用されているということであれば、この事業のところで再評価ということであれば2車線供用したところと比較をするべきなのかなと考えたのですけれども、この点でお考えがあればというか。

○**田家都市計画課計画整備担当課長** 先ほどお答えしましたとおり、前回事前評価のときの費用便益分析との比較の為前回と同じ条件でB/Cは算出したわけなのですけれども、今回の工事だけで出したB/Cも参考までに算出しております。

○**小笠原専門委員長** それでしたら、次回の審議資料として提出してください。平成18年で第1期事業が終了している時点で、これは事業としては平成23年からの事業になるわけですね。

○**田家都市計画課計画整備担当課長** はい。

○**小笠原専門委員長** ただ、新しい工事とみなすべきなのかなという気がします。

**○田家都市計画課計画整備担当課長** 分かりました。ちなみに、今回の工事だけで算出したB/Cの数字としましては6.9になってございます。

**○小笠原専門委員長** それを改めて、39ページありますよね、これに新規事業の欄をもう一列つくるような形でつくっていただけると分かりやすいかなと、ゼロから4車線と2から4車線、そういった費用便益を次回に資料としていただけると。それで便益が上がっていけば何ら問題ないのかなという気がしますので、わざわざ低い値を出さなくてもいいのかなという気がします。

そのほかございますか。

**○清水委員** 今のところで、当初から第1期、2期の全体計画があつてははじめこの橋をつくったと思うのですが、1期、2期と事業を分けた理由はあったのでしょうか。

**○田家都市計画課計画整備担当課長** 第1期事業のほうは平成18年度に完了して供用したということになりますけれども、周辺の土地区画整理事業や国道46号線の進捗と合わせ、まずは事業の効果を早期に発現させるということで、それで先行して暫定2車線を整備したところでございます。

**○清水委員** 4車線の橋となるとある程度幅があるので、こういうふうに段階を踏んで架けるものなのでしょうか。

**○田家都市計画課計画整備担当課長** 早期に事業効果を発現を目指し、最初に2車線を整備するなど段階を踏むこともあるかと思えます。暫定供用により利便性が高まりますので、暫定でも供用するということはあります。

**○清水委員** 上りと下りの間がありますしね。分かりました。ありがとうございました。

**○小笠原専門委員長** 今の質問に加えて、この道路を当初の事業計画は、初めから4車線で事業化なののでしょうか。だから、2期に分けるといのは初めから4車線化の事業を進めますよと、それで暫定として、1期工事として2車線を先に始めますでしたら分かるのです。1期工事は初めから2車線で始めますと、後からと、そういうわけではないですよ。

**○田家都市計画課計画整備担当課長** この都市計画道路は4車線で都市計画決定されています。

**○小笠原専門委員長** というわけですよ。

**○田家都市計画課計画整備担当課長** はい。

○小笠原専門委員長 そうなってくると、その事業化のときも当初計画の予算というのがあると思いますよね。それが多分まず必要で、この4車線化のトータルの当初計画の事業費というのが幾らなのかということですよね。1期で幾らかかって、どういうふうになったか分からないですけども、2期で純粹に、1期でかかった費用から、当初計画からさっ引いて、本来残りの金額で2期工事をしないといけない。それに対してどれだけ増額したかとB/Cなりを出すべきなのかなという気がするのでその辺を改めて整理して次回までに提出していただきたいです。

○田家都市計画課計画整備担当課長 はい。

○小笠原専門委員長 その他大丈夫でしょうか。

「はい」の声

○小笠原専門委員長 それでは、これでこの事業の審議を終了いたします。  
事務局の方から何かありますか。

○北島政策企画課評価課長 ないです。

○小笠原専門委員長 ありがとうございます。

○北島政策企画課評価課長 審議の過程で指示があった資料については準備して、後ほど次回お示しをしたいと思いますのですが、1点、火山砂防事業の関係で評価指標の政策課題の内容について御質問ありましたが、青いファイルの66ページをお開き願いたいと思います。66ページの評価指標のところですけども、重要性のところの(2)番の政策課題というところがあって、その内容としては要配慮者利用施設とか防災拠点、避難所、避難路対策のいずれかがあれば5点、なければ0点、そういう基準になっていますということで、説明させていただきます。

### (3) 第2回専門委員会(現地調査)について

○小笠原専門委員長 現地調査について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

#### [資料No.5説明]

○小笠原専門委員長 ありがとうございます。

事務局案について何か御意見等ございますでしょうか。

現地調査は河川事業、気仙川の治水対策、あと先ほどの本宮線、事務局と事前に検討したのですが、他の林道とか砂防等よりはこちらの方の移動距離も考えると妥当かなと。

移動手段については、いつ頃までがリミットに、状況次第で変わってきますよね、その

後、コロナが終息しているのだったらバスでなくてもいいのではないかなという気もしますし、その辺は事務局のほうで判断いただけたらと思います。

○池田政策企画課主任主査 分かりました。

○小笠原専門委員長 一応この案で現地調査のほうを進めていきたいと思います。

#### (4) 公共事業評価に係る評価基準の一部改正について

○小笠原専門委員長 それでは、最後の議事(4)になりますが、公共事業評価に係る評価基準の一部改正について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

#### 〔資料No.6 説明〕

○小笠原専門委員長 ただいまの説明に関して質問があればお願いいたします。

国と県の明確な基準ができるといいのですけれども、今の説明、点数を付ける側が苦労するなという印象を受けたのです。

○佐々木建築住宅課主査 国の方の指針の方ですけれども、主に部屋の配置、あと段差、手すりの設置、あとは廊下の幅員の幅ですとか、あと各部屋の広さということで便所の広さと浴室の広さと特定寝室、主に寝室になるところの部屋ですけれども、そういった寝室の面積等まで定めているということになっております。そうしますと、一般的には新設のときには構造からつくりますので、対応可能なのですけれども、改修時につきましてこの基準を全て満たすというところがすごく困難になるのですが、ただ一方ではやっぱり改修時においても使いやすさというものは求めていかなければならないということで、この中で県としましては最低限できる範囲の手すりの設置、段差、あと設備関連でいいますと電気のスイッチとか、あとは水洗器具でいけばレバーハンドルに替えるとか、そういった使いやすさのところをこの国の基準から持ってきたのがマスタープランの中の基準になっております。

○小笠原専門委員長 国の方の条件というのは全て満たしていれば10点。5点はどうか判断するのですか。

○佐々木建築住宅課主査 先ほど申しましたところの基準のところを満たしていればと。

○小笠原専門委員長 要するに、新居でなくても、それを全て満たしているのが5点。

○佐々木建築住宅課主査 そうです。

○小笠原専門委員長 全て満たすというのはなかなか難しいような気がするのですが、できれば何かもう少し3点とか2点とか入れてあげて、手すりをつけたら加点みたいな形でもい

いのかなと、3段階というのは0点か10点かみたいな感じになりそうな気がするので、5点のところをもう少し入れるようにしていただいてもいいのかなと。幸いまだこれに関わる事業評価はないので、もう少し柔軟な対応もしていいのかなという印象を受けました。どうでしょうか。

**○池田政策企画課主任主査** それでは、持ち帰らせていただきまして、再度お諮りさせていただきますと思います。

**○小笠原専門委員長** 環境負荷低減、その下を見るとかなり点数が段階的になっているので、もし可能ならこんな感じでもいいのかなという気がします。

それでは、その他事務局のほうから何かありますでしょうか。

「なし」の声

**○小笠原専門委員長** それでは、本日の議事をこれで終了させていただきたいと思います。進行を事務局のほうにお返しいたします。

#### 4 閉 会

**○北島政策企画課評価課長** 御審議いただき、ありがとうございます。

次回の専門委員会は、先ほどの説明のとおり7月13日に現地調査を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、本日の専門委員会を終了いたします。

委員の皆さん、長時間ありがとうございました。